






発表1 (ワーク①利用イメージの検討)


ワーク1の発表では、自然や歴史を大切にしつつも、様々な人々のことを考慮した施設整備について、各班とも様々な視点から意見をまとめて頂きました。

①班




自然を中心としたコンセプトとして、建物も活用したい。公園から海が見えることを大事にしたい。ゴミ問題への対処や安心して遊べる遊具(リスクや管理を考慮)の必要性。トイレや休憩場所もしっかり管理して進められると良い。

②班



海と公園の行き来がしやすく、海や飛行機が見えやすくする。ウミガメとの共生。樹々がきれいなエリアに回廊をつくり、海が見えやすく歩きやすくする。遊具はシンボリックに大規模に整備する。トイレを点在させつつ、授乳室もあると良い。トイレにジャズを流すのも良い。

③班



自然や歴史を紹介する掲示板や展望台、遊具、健康遊具等の整備。ウォーキングコースは幅4m位広くとり、車イスに配慮する。遊び場は安全のために年代別に分ける。自転車やバイクの人たち(国東に多い)が過ごせる場づくり。肢体不自由の方向へのベッド式トイレ、カフェやテナント、雨天でも遊べる場所、キャンプ施設(テナントが管理)等。

ワーク2 (方向性の検討)、ワーク3 (図上に表現する)

ワーク2では、A案「海岸方面への軸線を強調した案」とB案「内側に歩行者周遊空間を確保した案」のそれぞれに整備の強弱を加えた4つの構成案をもとに整備の方向性を話し合いました。ワーク3では、具体的な整備内容について意見を頂きました。今回はA案への意見が多かったため、A案の図に意見を整理しました。

1班:  

2班:  

3班:  

- ・道具はまとまっている
- ・子どもを見守れる環境
- ・トイレ分散設置
- ・休む場所は全部に配置
- ・テントを置いて休む
- ・外灯が必要(夜歩く人の為)
- ・ゴミ箱は必要?
- ・駐輪場が必要
- ・車いすで周回できる
- ・BBQができる
- ・デイキャンプ場

- ・花見スペース確保
- ・遊歩道の整備
- ・トイレを点在整備
- ・ジップライン



バス停 不要では

センターエリアは最小限(人が増えた場合のため)

センターエリアに休憩所、トイレ、ゴミ箱、自動販売機、カフェ、AEDなど

アクティブエリアに自転車の練習場、バスケ、テニス、ドッグラン等

中高生遊具はアクティブエリア

バス停 不要では

センターエリアは最小限(人が増えた場合のため)

センターエリアに休憩所、トイレ、ゴミ箱、自動販売機、カフェ、AEDなど

センターエリアは最小限(人が増えた場合のため)

センターエリアに休憩所、トイレ、ゴミ箱、自動販売機、カフェ、AEDなど


アクティブエリアに自転車の練習場、バスケ、テニス、ドッグラン等

中高生遊具はアクティブエリア

発表2 (方向性の検討、図上に表現する)


ワーク②と③の発表では、自然を活かしつつ積極的に整備するエリアを設けること、保護者の目が子どもに届くことを意識すること等の意見が共通して見られた他、様々なアイデアが示されました。

①班




自然を生かす。競技用の自転車やソロキャンプの方々も対象としたキャンプ場など、海側は自然を活かす。真ん中のエリアは子どもが遊ぶゾーンとして、小さい子のエリアと大きい子のエリアの間に保護者の休憩所を配置する。国道側は、駐車場の中でバスは発着してセンターエリアも小さくして、休憩場所を広げる。これらのゾーニングの中で高い位置の遊歩道等を整備する。現在のお墓付近に時計台やシンボルタワーなどランドマークとなる施設を整備する。駐車場付近の高低差を活かした様々なすべり台を整備する。

②班




整備を強めとする。街灯が必要。保護者の目が子どもに届く配慮が必要なので、フォレストエリアの一部を削る等、ゾーニングを工夫する。子どもだけでも大丈夫な中高生向けの3on3やスケボー等の広場を現在のアクティブエリアに整備する。敷地の中心にある古墳フォレストエリアは、いいアイデアは出なかったが、古墳を残しつつ有効に活用する方法を考える必要がある。

③班




みんなの原っぱエリアに大型遊具とふわふわドームを整備する(保護者の目を考慮)。アクティブエリアにバスケ、自転車の練習場、ドッグランを配置する。トイレを複数配置する(駐車場、遊具、ステージ付近等)。センターエリアは、休憩所、トイレ、ゴミ箱、自動販売機、カフェ、AEDなどを設置する。キャンプ場を整備する場合は、水道や電源があると良い。イベント広場のステージに屋根をつける。イベントが無いときは、イベント広場で野球のキャッチボールやサッカーボールで遊ぶ等、有効利用する。

まとめ、講評、閉会




徳永氏

まとめとして、徳永氏から、皆様のご意見を踏まえて次回のたたき台を提示するにあたっての考え方を大きく分けて3つ示されました。1つ目は、海などの自然環境をどのように活かすかということ、もっと広域的に視野を広げ、山から海岸線に至る地形の特徴を踏まえたレイアウトやゾーニングを検討することです。2つ目は、子ども達へ保護者の目が届くこと等の管理面で、街灯と遊具の配置やリスク管理も含めて検討することです。3つ目は、墓地や設備等の既存の土地利用の中で、どのように計画と整合させるかです。以上の点を踏まえながら、次回に向けて作業を進めます。



佐藤先生

講評として、佐藤先生から、皆様から肝心なことは意見にほぼ出ていること。中心に古墳があることで難しい面もあるが、逆に大きな特徴になり得ること。海岸への軸線と歩行者の周遊性の確保は両方大事であること。ゾーン毎に整備の強弱をつけること。この地域の豊かな植生を子ども達が学ぶなど、体力だけでなく知力も育てる場にしたいこと(例:植物の名前の札をつけて自然への興味を持つ入口にする等)。空中回廊で光合成を行う葉っぱを近くで見ることができるようにするなど、周遊空間を空中に設けること。さらに、周遊空間を海側にまで出して海への開けた眺望を確保すること等のアドバイスを頂きました。



伊藤課長

閉会あいさつとして、伊藤課長から、今回の整備は「海」が重要で、黒津がなぜ「津」であるかということを考える必要があること。黒津崎の砲台跡と考えられる場所は木を伐採すると非常に眺望が良いと考えられること。この場所が半島の最も東に位置していることが「国東」の地名の由来となっていること等を踏まえながら検討を進めることをお伝えした後、次回12月10日(日)への参加を皆様にお願いました。参加者アンケートでは、比較的意見を出せた人が多く、他の参加者の様々な意見を聞いたことが良かったと回答された方も何名かおられました。